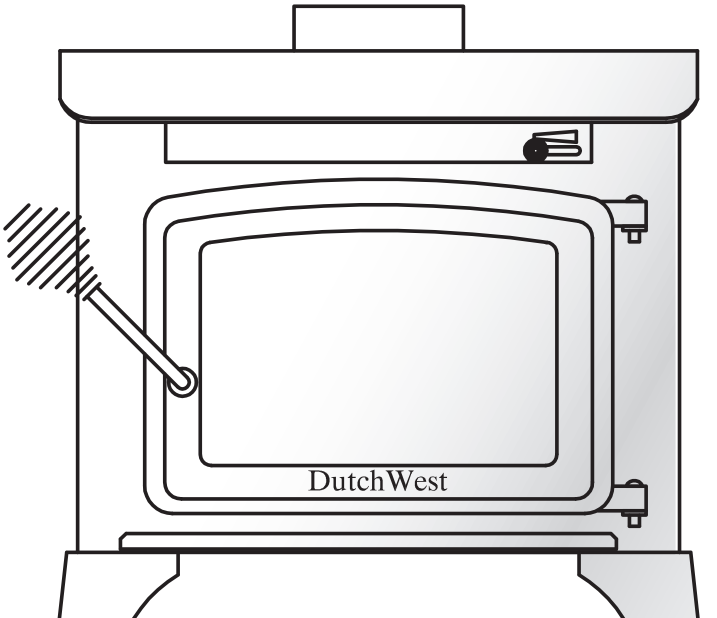
EST. 1974
DUTCHWEST
BY VERMONT CASTINGS

DUTCHWEST "Entry"

ダッチウエスト"エントリー"

FA244

据え付け・取り扱い説明書



安全のために

据え付けや運転を行う前に、必ずこの説明書を最後までお読みください。このストーブは、適切な据え付け、運転、維持がされている限り安全にご使用になれます。説明書の指示が守られなかった場合、火災が発生し、資産の損害や怪我、あるいは人命の喪失を引き起こす可能性があります。

この説明書は捨てずに必ず保存しておいてください。

はじめに

このたびは、ダッチウエスト“エントリー”をお買い上げいただき、誠に有難うございます。ダッチウエスト“エントリー”は、最新の燃焼技術と伝統的な様式美を兼ね備えたクリーンバーン方式の高性能ストーブです。このストーブには、耐久性の高い鋼板が使用されており、素早い放熱性能を発揮するとともに、火室内部にくまなく内張りされた耐火レンガによって蓄熱性能も高くなっています。この説明書に従って正しくご使用していただければ、安全で経済的な暖房器具として末長くご使用いただけます。

このストーブの据え付けは、専門業者に行ってもらうことをお勧めいたします。ご自分で据え付けを行う場合は、専門業者のアドバイスを仰ぎながら行うようにしてください。また、火災保険の適用条件ついて、保険会社に確認されておくこともお勧めいたします。

DUTCHWEST “Entry”

目次

●仕　　様…………………… 1

●安全距離…………………… 1

●組み立て方法……………… 2

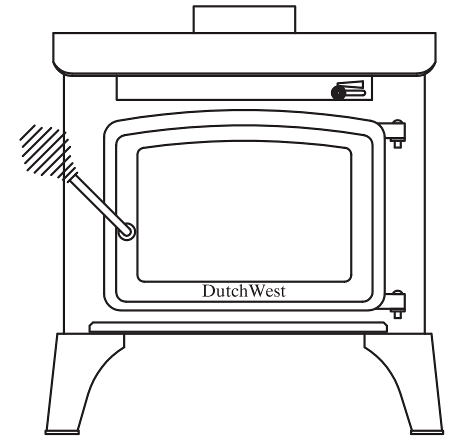
●使用方法…………………… 3

●メンテナンス ……………… 5

●分解図とパーツリスト …… 9

組み立てやご使用の前に、必ずこの説明書を最後までお読みください。説明書の指示が守られなかった場合、火災が発生し、資産の損害や怪我、あるいは人命の喪失を引き起こす可能性があります。この説明書は、今後のご使用の際に簡単に見ることができるよう、身近なところに保管してください。

仕 様



	●FA244
幅	572mm
高さ	600mm
奥行	510mm
最大薪長さ	46cm
最大燃焼時間[1]	7時間
平均暖房面積[2]	49〜93㎡
最大熱出力[1]	6,600Kcal
EPA（米国環境保護局）排気煙量	5.3g/hr
重量	79kg
薪投入口	正面
煙突取り付け位置	上
空気調節	1ヶ所

ダッチウエスト“エントリー”の仕様

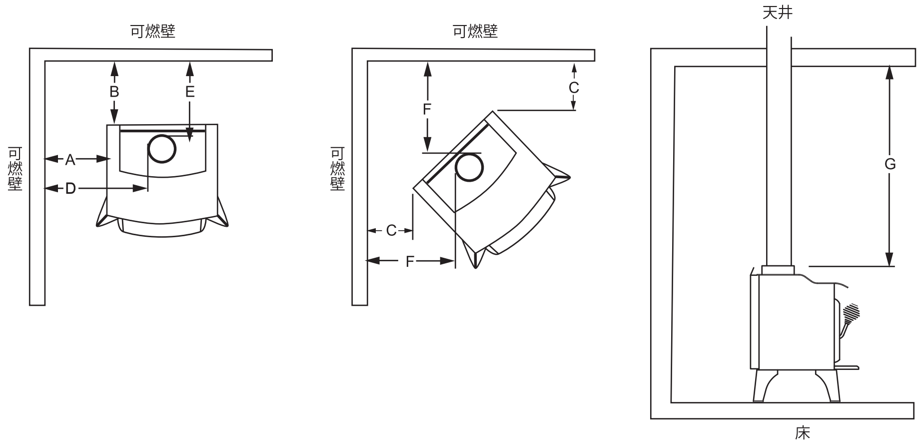
1）最大燃焼時間と最大熱出力は、実験室において、よく乾燥した薪を使用したテストで得られた数値です。これらの数値は、ストーブの運転方法、ストーブのタイプ、薪に含まれる水分の割合などの要因によって異なります。最大燃焼時間は、最大熱出力とは異なる条件下で得られた数値です。

2）この数値は、アメリカの建築法に基づいて建てられた家屋で、アメリカ北東部の典型的な冬の気候条件の下で計測されたものです。お客様の家が、この基準以下の建て方であったり、冬の寒さがもっと厳しい地域にある場合は、これらの数値が適用されないことがあります。ストーブの性能には様々な要素が影響します。お客様の家に、どれ位の能力のストーブが必要かについては、お近くの販売店にお問い合わせください。

安全距離

クリアランスチャート（可燃壁からの安全距離）

ストーブと室内煙突の、可燃壁からの安全距離を調べる場合は、下記の図を参考にしてください。

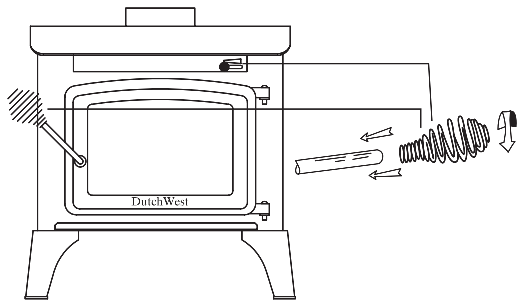


FA244	可燃壁からの安全距離						
	A	B	C	D	E	F	G
	460mm	380mm	180mm	650mm	445mm	380mm	1420mm

組み立て方法

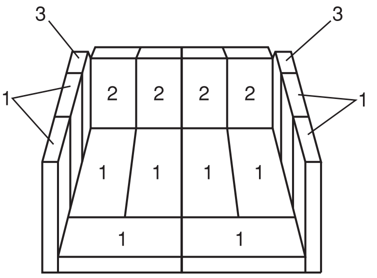
このストーブは、いくつかの組み立て作業が必要です。下記の手順に従い、正確に組み立てを行ってください。

スプリングハンドルの取り付け

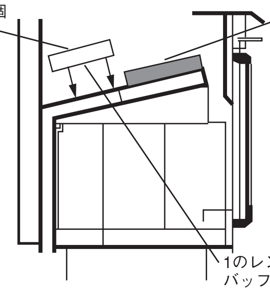


●ドアハンドル及びエアーコントロールレバーに、スプリングハンドルを押しつけながら、反時計回りに回すと、希望の深さまで入れることができます。

耐火レンガの取り付け位置



バッフル用レンガの取り付け



耐火レンガパーツリスト			
ITEM	DESCRIPTION	PART #	QTY
1	FIRE BRICK LT9″(229mm)×4-7/16″(113mm)×1-1/4″(32mm)	S16040	12
2	FIRE BRICK LT7-1/14″(184mm)×4-7/16″(113mm)×1-1/4″(32mm)	S16043	4
3	FIRE BRICK LT-ANGLE CUT	S16042	2

ビニール製保護フィルムの取り外し

ストーブの天板前面とアッシュフェンダーに付いているビニール製保護フィルムを取り外してください。

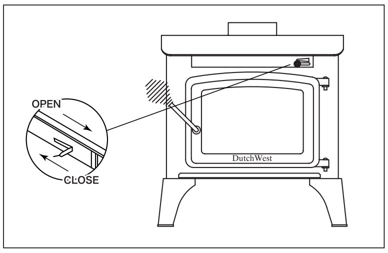
使用方法

ヒーターの操作方法と特徴

●エアーコントロールの方法

このストーブには、空気の取り込み量を調整できるエアーコントロールが付いています。通常、取り込む空気の量が多いほど燃焼は早くなり、火力は強くなります。逆に、取り込む空気の量を少なくすると、火力は弱くなりますが、その分燃焼時間は長くなります。

エアーコントロール・レバーは、正面の右上にあります。このレバーは、内部にあるシャッターを操作するもので、シャッターを開くと、一次燃焼空気を取り込むことができます。



ヒーターコントロール
シャッターを開くにはレバーを右に動かしてください。レバーを一番右にすると、全開になります。シャッターを閉じるには、レバーを左に動かして下さい。レバーを一番左にすると、シャッターは完全に閉まります。

エアーコントロールの設定

	設定温度	エアーコントロールの位置	おおよその熱出力 (kcal)※
FA244	低	全閉	2,640
	中ー低	1/4開く	3,060
	中ー高	3/4開く	4,900
	高	全開	6,600

※ストーブの熱出力は煙突の設置状況、薪の種類や水分量などによって異なります。

●薪の上手な焚き方

薪を焚くという作業は、科学というよりも芸術に近いと言われています。良質の乾いた薪を使い、ストーブの空気取り込みシステムを良く理解すれば、薪を焚く技術は簡単に身に付けることができます。

●燃料には品質の良い薪を

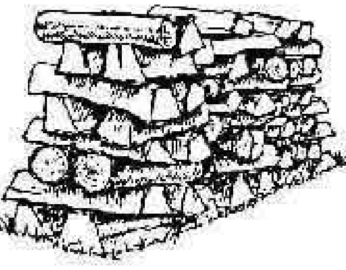
このストーブは、天然の薪のみを焚くように設計されていますので、それ以外の燃料は使用しないでください。圧縮加工された木材、塗装された木、カラー印刷された新聞紙などは燃やさないでください。

針葉樹や生木に比べて、適度に風にさらされて良く乾燥した広葉樹は、燃焼効率が非常に良く、排気ガスはずっと少なくなります。生木は、水分を含んだクレオソートが多く発生しますので、絶対に燃やさないでください。

最高の薪は、適切に乾燥させたナラ、カエデ、カバ、クヌギなどです。割った薪は屋外に積み、カバーをかけ、最低1年間は乾燥させてください。広葉樹が手に入らない場合は、カラマツ、アカマツ、スギ、ヒノキなどの針葉樹をしっかり乾燥させてから焚いてください。薪の長さは、ご使用になるストーブに合わせて切ってください。2年以上乾燥させた薪は使用しないでください。灰色がかっているような古い薪は、燃焼速度が速くなりすぎ、ストーブの性能が十分に発揮されないうちに燃え尽きてしまいます。

薪を保管する際は、乾燥を保つために、必ずカバーをかけてください。また、どんなに短い間であっても、薪はストーブから安全な距離をとって保管してください。ストーブの周囲には、薪を投入したり、灰を出したりする作業がしやすいように、ゆとりを持ったスペースを確保してください。

最良の薪は、少なくとも1年間、屋外で乾燥させたものです。



●最適なエアーコントロールの調整

エアーコントロールの調整具合は、これで絶対というものはありません。ストーブの設置場所、燃料の質、部屋の広さ、どのくらい長く燃焼させたいかなどによって異なります。

エアーコントロールの調整は、ストーブから煙突までのドラフトによっても異なります。ドラフトに影響を与える要素としては、煙突の高さや種類、煙突の設置場所、立地条件、近くにある大きな障害物（建物や木立など）などがあります。

あまりにも強いドラフトは、ストーブ内の温度を異常に上げ、ストーブ本体や耐火レンガの破損につながります。逆に、ドラフトが弱すぎると、煙が室内に逆流したり、煙突が詰まりやすくなります。

ドラフトが強すぎるのか弱すぎるのかは、ストーブや煙突の様子を見るとわかります。ドラフトが強すぎると、ストーブや煙突の一部が、過熱して赤くなるという症状が現れます。ドラフト不足の場合は、ストーブや煙突の連結部分から煙が室内に漏れてくるという症状が現れます。

ストーブの使い始めの内は、毎回、どのような調整をしたか、記録しておくようにしてください。1〜2週間もすれば、様々な状況での、最適なセッティングが分かるようになるでしょう。

煙突のドラフトを最適に保つには、天候の変化を絶えず気にかけることです。屋外の気温が高くなったり、気圧が低くなったりすると、ドラフトは弱くなります。逆に、屋外の気温が低くなり、気圧が高くなると、ドラフトは強くなります。ただし、屋外煙突の露出部分が多い場合は例外です。煙突が外気によって冷やされてしまい、排気ガスの温度も下げてしまうからです。とくに屋外の気温が非常に低いときはなおさらです。

ストーブと煙突が適切な設置がされており、十分なドラフトがあれば、とくに大量の空気は必要ではありません。ストーブの火力を上げようとして、エアーコントロールの調整を、指示以上の範囲にまで広げるようなことはしないでください。

最近の住宅は、断熱性や気密性が非常に高いため、ドラフトが弱いと、室内の空気が不足しがちになります。このような場合は、ストーブに近い風上側の窓を少し開けると、新鮮な空気が入り、正常に燃焼するようになります。

燃焼空気を十分に取り込むためのもっと良い方法は、ストーブの近くに、屋外の空気を取り込む吸気口を設けることです。

「エアコントロールの設定」を参考にして、様々な状況をお試しになり、お客様のストーブに最適なセッティング方法を見つけてください。

着火と継続燃焼方法

警告：
ストーブを使用するときは、必ず全てのドアが閉まっていなければなりません。運転中のストーブは高温になりますので、小さなお子様、衣類、家具などを近付けないようにしてください。

●慣らし運転（塗料の焼き入れ）

新しいストーブを初めて使用する場合は、ストーブ表面の塗料を硬化させるための慣らし運転が必要です。次に示す手順に従い必ず慣らし運転を行ってください。ストーブ表面温度の確認には、オプションのストーブ温度計をご使用ください。
最初の燃焼時は、塗料が焼けて煙が発生します。煙が出ているうちは、窓を開けて換気を行ってください。一度燃焼させると、塗料に焼きが入り、硬化しますのでそれ以上煙は出なくなります。
1）最初の2回は、約120℃で20分間ほど燃焼させます。
2）3回目は、260～370℃で45分以上燃焼させます。
大切なのは、塗料をゆっくりと硬化させることです。塗料が硬化している間は、ストーブを高温で燃焼させないでください。
塗料は硬化する課程で粘つくことがありますが、この状態が過ぎると硬くなります。また、ストーブの表面に、梱包材と擦れてできた跡が残る場合がありますが、これは、塗料が硬化していくにしたがい消えていきます。

●点火

ステップ1　エアーコントロールを全開にします。
ステップ2　ストーブの中に丸めた新聞紙を入れます。この上に、よく乾燥した、指の幅大に割った焚き付けを6～8本載せ、さらにその上に、よく乾燥した25～50mmほどに割った薪を2、3本載せます。
着火には、絶対に化学薬品や薬剤を使用しないでください。ガソリンやエンジンオイルのような燃えやすい液体や、生ゴミなどは絶対に燃やさないでください。また、ランタン用の燃料や灯油なども、着火や再燃焼用には、絶対に使用しないでください。
ステップ3　新聞紙に火をつけ、ドアを閉めます。10～15分くらいで燃焼が安定してきます。少しずつ薪を足していくと、徐々に火が大きくなります。薪の下に熾きが溜まるまで燃やし続けてください。
ステップ4　火が安定して燃えてきたら、5センチほどの熾きができるまで薪を足してください。このストーブは、空気が火室全体を循環できるとき、最も効果的に機能するよう設計されています。この状態にするため、手前の熾きを後ろの方に集めてから、中央付近に薪を足すようにしてください。
ステップ5　10分ほどで火が安定してきますのでエアーコントロール・レバーを調整しながら（3Pの「エアーコントロールの設定」参照）、ご希望の燃焼状態にしてください。火室の中に煙が充満しているようであれば、再度炎があがり、薪に十分点火するまで、エアーコントロールを全開にしてください。

注意：
煙突が冷えている場合は、事前に煙突を暖め、十分な吸い込みを発生させる必要があります。その場合、新聞紙を2、3枚丸めて、焚き付けの上や後方に置き、火をつけてドアを閉めます。これで煙突が暖まり、十分なドラフトが発生します。ドラフトが発生したらフロントドアを開き、燃料に着火してください。煙突に吸引力がつくまでは、主燃料は燃やさないでください。一度で吸引力がつかない場合は、二度、三度と繰り返してみてください。

このストーブは、燃焼中は非常に高温になり、触ると火傷をします。小さなお子様、衣服、家具などを近付けないでください。
ストーブの過剰燃焼にご注意ください。過剰燃焼は火災の原因になりますし、ストーブ本体の損傷にもつながります。ストーブの表面や煙突の一部が赤くなっていたら、過剰燃焼の状態にあるということです。

●薪の補給と火力の回復

熾きがたくさんあるうちに薪を追加すると、すぐに火力を回復することができます。細い薪も一緒に足すと、あっという間に高温にすることができます。

薪を追加するときは、次の手順で行ってください。
●エアーコントロールレバーを「全開」の位置にします。
●フロントドアを開け、炉床の上と灰受け皿にある灰の厚さをチェックします。炉床の灰が多すぎるときは、捨ててください。
●薪を投入します。細い薪を最初に入れ、次第に太い薪を入れるようにしてください。
●エアーコントロールレバーを望みの暖かさになるよう調整します。

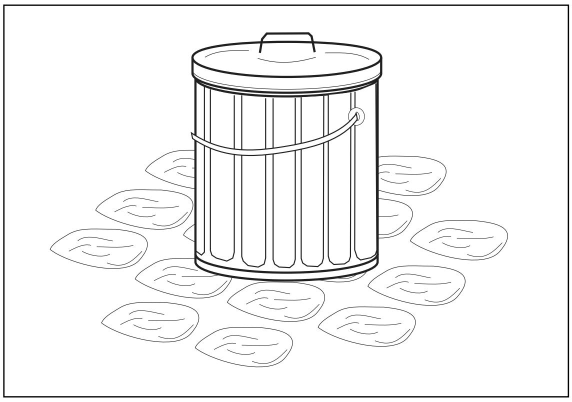
●灰の処理

灰を取り出す際は、ストーブ用の革手袋をはめて行ってください。燃料を補給する際は、必ず灰の量を点検し、灰が一杯に溜まっていた場合は取り除いてください。

注意：
灰は全て取り除かず、2～3cmほど残しておきますと、次の着火がしやすくなります。

●安全な灰の処理方法

灰には熱い熾きが入っている場合がありますので、取り扱いには十分な注意が必要です。取り出した灰は、しっかりと蓋が閉まる金属製容器に入れ、屋外で保管してください。最終的な処理をするまでは、不燃性の床や地面に置き、可燃物との距離も十分に確保してください。灰は園芸用の肥料として利用できますが、完全に冷めたのを確認してから使用してください。



熱い灰は非常に危険です。しっかりと蓋の閉まる金属性の容器で、屋外の安全な場所に保管しましょう。

注意：
ストーブの灰は掃除機で吸い取ってはいけません。灰は必ず指示された方法で取り除いてください。

メンテナンス

ストーブのお手入れ

●ストーブ表面のお手入れ

乾いた布で時々ほこりを拭き取りますと、ストーブの表面を常に新しい状態に保つことができます。

また、必要に応じて、表面のペイントを補修することもできます。この場合、必ずストーブが完全に冷めたのを確認してから行ってください。まず、補修したい表面をきれいに掃除をしてください。真鍮部品やガラスなどにはマスキングテープを貼り、塗料がつかないように保護してください。その後、専用の耐熱塗料を使用し、塗装を行ってください。屋内で作業をする場合は、十分に換気を行ってください。塗装は、厚塗りを1回するよりも、薄塗りを2回した方が、きれいに仕上がります。

●ガラスの清掃

ガラスに付着した汚れのほとんどは、火力が高温になるにしたがい焼け落ちてしまいます。ガラスに付着した汚れを拭き取る場合は、乾いた新聞紙を丸めたものを使用してください。絶対に熱くなっているガラスを、液体のクリーナーで掃除しないでください。それでも汚れが取れない場合は、以下の手順で清掃してください。

・ガラスが完全に冷めていることを確認してください。

・専用のガラスクリーナーを塗り、乾いた布で拭き取ってください。

・ガラスを完全に乾かしてください。

●ドアガスケットの点検と修理

ドアガスケットに、一部でもへたっているところがあると、そこから空気が漏れ、このストーブの特徴である気密性が損なわれることがあります。へたっている場所を確認するには、紙を一枚はさんでドアを閉めてみてください。紙を引っ張ってみて、破けずに、簡単に抜けてしまうようであれば、ガスケットに問題がある証拠です。へたっているところがある場合は、ガスケットの調整をする必要があります。現在ついているガスケットを持ち上げ、少量のセメントかガスケットを溝に詰めてください。本来のガスケットが持ち上がり、ドアフレームとしっかり接触するようになります。

このような調整をしても、まだ紙が抜けるようであれば、ガスケットを交換しなければなりません。以下の要領でガスケットの交換を行ってください。

1.現在ついているガスケットの端を、しっかりと掴んで引っ張り、取り除きます。

2.安全メガネをかけ、ワイヤーブラシかドライバーの先端を使って、溝の中に残っているセメントやガスケットのカスをきれいに取り除きます。

3.古いセメントを取り除いた溝の中に、耐火セメントをビーズ状に注入します。

4.溝の中に新しいガスケットをはめ込みます。ガスケットの端は5～6センチ余裕を残して切断してください。

5.ガスケットの両端がほどけたり、重なったりしないように接着し、余分を切り落としてください。

6.溝の周囲にはみ出したセメントを取り除いた後、ドアを元に戻し、閉めて、24時間以上常温で乾燥させてください。

7.乾燥させた後、ドアに紙をはさみ、密閉度を確かめてください。明らかに密閉度が不足している場所があれば、セメントを足すなどして調整してください。

●ガラスの破損に注意

乱暴にドアを閉じたり、薪でガラスを叩いたりしないでください。また、ガラスにひびが入ったり、割れたりした場合は、ストーブを使用しないでください。ガラスを交換する場合は、必ず当社の純正品をご使用ください。

煙突のお手入れ

●煙突の清掃

煙突は、少なくとも毎月2回は点検して、必要に応じて掃除をしましょう。
ストーブの使い始めの内は、毎日クレオソートの付着具合を点検してみてください。クレオソートは、粘着性のあるタール状、または乾燥したフレーク状の物質です。経験を積むにしたがって、どのくらいの頻度で掃除をすればよいかがわかってきます。頻度は季節によって異なります。寒い季節には火力を高めに設定するため、クレオソートは燃え尽きてしまいます。そのため、掃除は2～3ヶ月に一度でいいでしょう。寒さがゆるんで、それほど高温で焚かなくなる季節には、クレオソートが溜まりやすくなりますので、毎月掃除をする必要があるかもしれません。
ストーブの使用期間中は、少なくとも2ヶ月に一度は点検をして、クレオソートやススがたまっていないかどうかを点検してください。クレオソートやススが3mm以上付着していたら、火災が起こる危険性がありますので、必ず除去してください。
煙突火災は以下のような段階を経て発生します。

・ストーブを低い温度で燃焼させると、タールやその他の有機性の蒸気が生成され、これが水分と結合してクレオソートが発生します。
・クレオソートを含む蒸気は、比較的冷たい煙突内では凝縮しやすくなります。
・その結果、クレオソートの残留物が煙突の内側に付着します。
・クレオソートは可燃性物質のため、何かの拍子に着火すると、煙突内に非常に高温な炎が発生します。
・その結果、煙突が損傷するだけでなく、煙突の周囲にある木材なども加熱させ、損傷を与えます。クレオソートの生成量を減らすには、十分な燃焼空気を供給して、不完全燃焼を起こさないようにし、規模は小さくても、強力な火を維持することです。
万が一の煙突火災に備え、事前に、消火方法などを確認されておくことをお勧めいたします。

●煙突の定期点検

煙突は、月に2回以上点検し、必要に応じて掃除をしてください。煙突内の点検は、ストーブが完全に冷めてから行ってください。懐中電灯と鏡を使って、煙突掃除口から中を見てみます。掃除口がない場合は、煙突をストーブから外して点検します。煙突掃除には、煙突の内径に合った煙突掃除用ブラシを使用してください。ブラシには、専用の棒かロープを装着して、上下に動かし、付着物を落とします。落とした付着物は、きれいに取り除いてください。室内煙突は1本ずつ分解し、屋外で、ワイヤーブラシなどを使用して付着物を除去します。掃除が終了したら煙突を元に戻しますが、このとき、必ず3本のネジで、各部分（スライド部分は除く）をしっかりと固定させなければなりません。

メンテナンススケジュール

■ストーブ

●日常のお手入れ

・最低1日に1回は灰の溜まり具合を点検してください。
・ストーブの周りをきれいに片付け、近くに可燃性のものを置かないようにしてください。

●2ヶ月ごとのお手入れ

・ドアラッチが適切に締まっているか点検してください。ガスケットは、一定期間が経過するとつぶれてしまいますので、必要に応じて点検・調整を行ってください。

●シーズン終了後のお手入れ

・ガスケットの減り具合を点検し、必要に応じて交換してください。
・火室内の灰を捨て、吸湿剤（猫のトイレの砂など）を入れて、ストーブ内部を乾燥させてください。
・ストーブ内部の、各部品を固定しているボルトを一度ゆるめ、再度締め直してください。長い期間この作業をしないと、ボルトが熱と錆で固着してしまい、外れなくなることがあります
・ストーブ内部に付着しているススやタールを、ワイヤーブラシなどで取り除いてください。ススやタールが付着したまま放置すると、内部部品を傷める原因になります。
・ストーブ全体のほこりを取り除いてください。ストーブの表面にほこりがついていると、熱の発散が妨げられてしまいます。
・塗装が剥がれている場合は、純正の耐熱塗料で補修をしてください。

■煙突

●2週間ごとのお手入れ

・煙突内部を点検し、必要に応じて掃除をしてください。

●2ヶ月ごとのお手入れ

・煙突内部を点検してください。とくに曲がりと水平部分はススが溜まりやすいので、念入りに点検し、必要に応じて掃除をしてください。

●シーズン終了後のお手入れ

・ストーブの口元からトップに至るまでの、全ての煙突を点検し、掃除を行ってください。煙突に付着したクレオソートを放置しておくと、正常な燃焼を妨げるばかりか、煙突火災を引き起こす原因にもなります。
・煙突内部に異物（鳥など）が入らないように、煙突トップにアミやカバーを付けてください。
・各煙突部材を点検し、金具のゆるみや、シーリングの劣化などがあれば補修してください。また、損傷がある場合は、新品と交換してください。

ドラフト管理

ストーブは、煙突、使用する人、燃料、家屋からなる、1つの総合的なシステムの一部だと思ってください。こうしたストーブ以外の要素が、ストーブの調子に大いに影響してくるのです。全ての要素の相性がよいと、ストーブは効果的に働きます。
薪ストーブの性能は、ドラフト（自然の通風力）次第です。ドラフトとは、煙突の先端部分で、排気ガスの温度が屋外の空気より高い（つまり、軽い）ときに起こる空気の動きです。温度差が大きければ大きいほど、ドラフトは強くなります。熱い排気ガスが煙突から上がると、吸引力が起こり、空気がストーブに引き込まれて燃焼空気となります。ストーブ本体の空気取込口を最大に開けて、強火で燃やしていると、ドラフトは強くなります。空気取込口から空気を多く取り込み、盛んに火を焚くとよいドラフトが発生しますが、この空気取込口は受け身であり、取り込む空気の量の調整はできますが、空気を積極的にストーブの中に送り込むことはできません。最近の薪ストーブは、燃焼用空気の量を調整することができます。こうした薪ストーブの効率は、煙を暖かいまま屋外に排出できるか否かで変わってきます。煙突が鉄製か、レンガ製か、家の内部にあるか外部に出ているのか、ストーブのフルーカラーにぴったりはまるか否かといった煙突の特徴は、強力なドラフトを早く起こせるか、最適な温度を長時間維持できるかに、大きな影響を与えます。次に様々な煙突システムの影響と、それがストーブの性能に与える影響についてご紹介いたします。

●レンガや石造りの煙突

レンガや石は伝統的な煙突素材ですが、燃焼が調整できる近代的な薪ストーブを使うには不向きです。これらの煙突は、「熱の落ち込み」がはっきりと出ます。長期間燃やしていると、レンガや石が熱を吸収・蓄積しますが、煙突には多量のレンガや石が使用されているので、これら全てが強いドラフトを起こせるまで熱くなるには、時間がかかり過ぎます。冷えた煙突は、排気ガスの温度を上げないどころか、ドラフトの力を消してしまいます。もしも、煙突が屋外に出ていたり、煙突の断面積がストーブの排気口よりも大きい場合は、この問題はさらに深刻になります。

●スチール製の煙突

工場製のスチール煙突のほとんどが、断熱効果のある多重構造になっています。内側の煙突は高温になりますが、内側煙突と外側煙突の間に、高性能な断熱材が充填されているため、外側の煙突には熱が伝わらず、周囲の構造物を高温から守り、また、煙突内を通る煙の温度も下げません。
スチール煙突の内側の煙突は、レンガや石の煙突にくらべ、非常に早く温度が上昇します。外観的にはレンガや石の煙突の方が風情がありますが、スチール煙突の方が耐久性、性能とも非常に高いのです。

●煙突の設置場所

煙突の機能は、煙を熱い状態のまま排出することですので、煙突は家の中にある方がベストです。煙突を家の中に設置すると、外気の影響を受けることもなくなりますし、煙突からの放射熱が家の中に発散されることにもなります。屋外に逃げる熱が少ないということは、ストーブの熱のロスが少なくて済むということにもなります。

●煙突のサイズ

ストーブの煙突のサイズは、ストーブのフルーカラーと同じ大きさでなくてはなりません。煙突がフルーカラーよりも大きいと、排気ガスが薄まり、上昇気流が失われます。6″のフルーカラー（28平方インチ）のストーブに、10″×10″の煙突をつなげると、排気ガスは最初の量の1/3に薄まります。その結果、ガスの温度が下がり、ドラフトも弱まります。また、大きすぎる煙突が屋外にある場合は、外気で冷やされますので、さらに煙の温度を下げてしまいます。
一般的に、レンガや石でできた煙突は、ストーブに対して大きすぎます。このような煙突は暖まるまでにかなりの時間がかかり、その結果、ストーブが思い通りに温度が上がらないということになります。大きすぎる煙突に対する一番よい解決方法は、ストーブのフルーカラーと同じサイズの、断熱式スチール煙突ライナーを取り付けることです。このライナーをつけることにより、排気ガスを暖かく保つことができますので、強力なドラフトを発生させることができます。断熱式ではないライナーを取り付けることもできますが、この場合、ライナーの周りの空気を暖めるのに時間がかかりますので、その間の熱エネルギーを消耗することになってしまいます。

●煙突のレイアウト

煙突の曲がりは、ストーブから煙突トップに至る排気の流れにとって、障害になります。理想的なレイアウトは、ストーブから煙突トップまで曲がりがなく、まっすぐ上に伸びるタイプです。ストーブの性能が最もよく発揮され、メンテナンスも容易ですので、できるだけこのようなレイアウトにしてください。どうしても曲がりが必要な場合は、ストーブのフルーカラーと、二重煙突の接続部の中間に曲がりがくるようにしてください。このように配置した方が、排気ガスのスピードが上がり、スピードアップした状態で曲がりを通過しますので、スムーズな排気ができるようになります。

●煙突の共有について

ストーブの煙突は、ストーブ専用とし、他の機器と共有させないでください。ドラフトは自然なエネルギーのため、抵抗が少ない方に進んでしまいます。ストーブの煙突が別の暖炉や、その他の機器に接続されていると、これらの機器からも空気を引き込んでしまいます。このようにして取り込まれた余分な空気の流れは、排気ガスの温度を下げ、ドラフトを失わせ、クレオソートをより多く発生させてしまいます。多くの機器を接続した煙突は、ホースに穴が開いた掃除機のようなものです。最悪の場合、他の機器のドラフトが負のドラフトを起こし、その結果、危険なドラフトの逆流が起こってしまいます。

●燃料

ストーブが最高の状態で据え付けられたとしても、燃料が悪いと良い燃焼は得られません。必ず、1年から1年半かけて乾燥させた、広葉樹を使用してください。針葉樹は広葉樹よりもよく燃えますが、クレオソートの原因となる樹脂が多く含まれています。腐りかけた木は、燃やしてもあまり熱を発生しませんので、使用しないほうがよいでしょう。

切ったばかりの生木は、水分を多く含んでいますので、熱のほとんどは木が燃える前に、水分を蒸発させるために使われてしまいます。このため、本来の熱量が減るだけでなく、火力や排気ガスの温度まで下げてしまいます。また、不完全燃焼と排気ガスの低温化のため、クレオソートの生成が促進され、ドラフトも弱まってしまいます。

薪に含まれている水分量は、見た目や重さから推測できますが、市販の湿度計を使用すると正確に測ることができます。乾燥していない木の重さは、乾燥した木の3倍あります。また、木は乾燥すると縮むので、割れ具合でも判断することができます。割れ目が長く、幅が広いほどよく乾燥しているということです。

●クレオソート

クレオソートは、ストーブを低温で燃焼させたときの副産物です。排気ガスの温度が149℃以下になると、不完全燃焼のガスが煙突の中で凝縮します。その結果できるタールがクレオソートです。クレオソートは揮発性なため、煙突火災を引き起こす恐れがあります。煙突のドラフトにとってマイナスな据え付けは、クレオソートの生成を促す要因となります。つまり、適切な煙突の設計や、ドラフトを高めるような運転をすることにより、クレオソートの生成を最小限に抑えることができるということです。

頻繁に煙突内部を点検し、6mm以上のクレオソートが付着していれば、煙突掃除を行ってください。

●バックパフ

バックパフとは、ドラフトが弱くて、煙突の吸引力が弱すぎるために、燃焼速度に合わせて排気ガスを排出できないときに起こる現象です。火室で発生した不完全燃焼ガスが、一定の濃度と温度に達したときに点火され、「ポン」という音とともに、煙が空気取込口より出てきます。

バックパフは、外気温がゆるみ、弱火で燃焼するようになる春先によく起こります。弱火で燃焼するようになると、ドラフトが弱まりますので、バックパフが起きやすくなります。バックパフが起きた場合は、空気取込口を大きく開き、火を勢いよく燃えるようにして、ストーブから煙突にかけてのドラフトを適切な状態にします。また、一度にたくさんの薪を入れないようにしてください。低燃焼時にたくさんの薪を入れると、着火する前にいぶされて、未燃焼ガスを多く発生することになります。

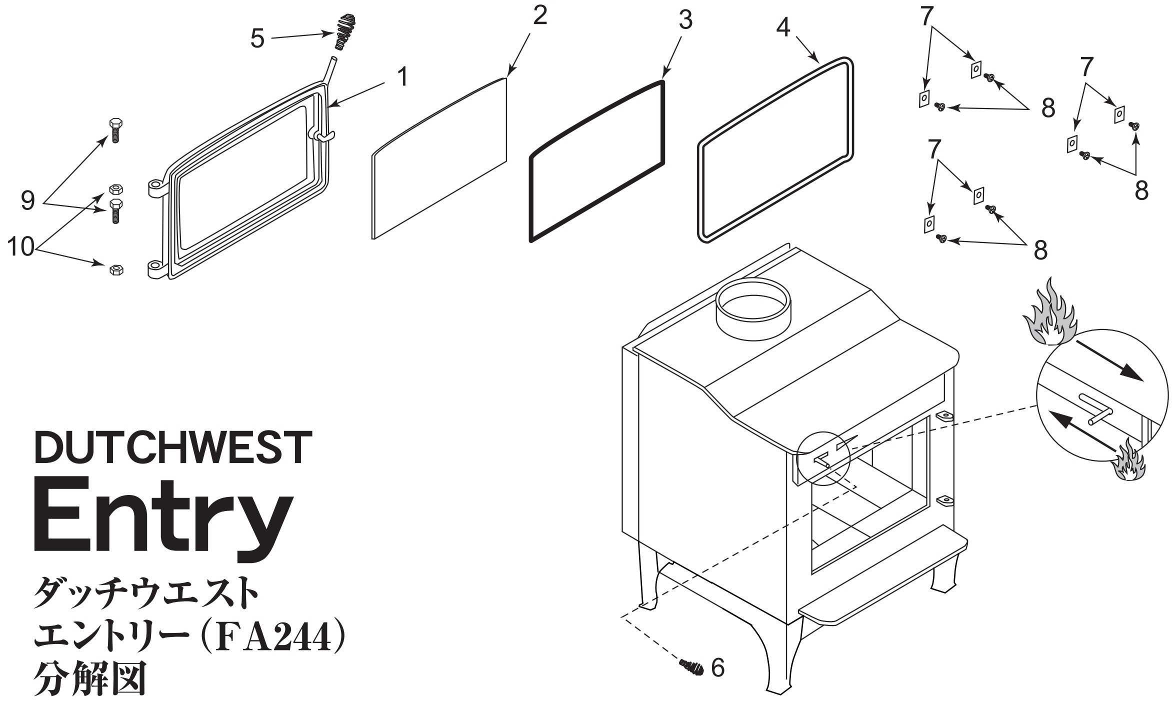
●負の圧力

良いドラフトが発生するには、ストーブに十分な空気を供給する必要があります。煙突は、供給される以上の空気は吸い込めません。弱いドラフトの原因としては、家が密閉されすぎていて、ストーブに十分な空気が供給できない。あるいは、ストーブ以外に、室内空気を吸い込もうとする機器（キッチンの換気扇、衣類乾燥機、浴室など）があり、空気の争奪戦になっている。の2点が考えられます。これらの機器を止めることにより、煙突の吸い込みが良くなるようでしたら、各機器を使うタイミングに気を付ければ、問題は解決します。また、壁や床に、ストーブに必要な燃焼用空気を取り込む吸気口をつける方法もあります。

●結論

薪を焚くということは、科学というより芸術に近いかもしれません。芸術には当然技術も含まれます。設置場所や薪の種類によって、運転方法も変えなければなりませんので、ストーブを使用する人は、良い燃焼をするための技術（タイミングなど）を習得しなければなりません。しばらく使用しているうちに、様々な因果関係や、季節の変化がもたらす影響についても、見分けられるようになるでしょう。

分解図とパーツリスト



DUTCHWEST Entry

ダッチウエスト　エントリー（FA244）パーツリスト

Ref.	Description	Part No.
1.	Door	90000098
2.	Glass	S31117
3.	1/8″Glass Gasket	GK244GL
4.	5/8″Door Gasket	GK244FD
5.	Spring Handle	90000069
6.	Air Control Spring Handle	90000070
7.	Glass Clip	S37034
8.	Screw	S11086
9.	Hinge Pin	S11005
10.	Push Nut	S11090

注意：製品改良のため、予告なく材料・仕様の一部を変更することがあります。

Dutchwest Japan
wood stoves & fireplaces

ダッチウエストジャパン株式会社
〒080-0010　北海道帯広市大通南28丁目4
フリーダイヤル 0120 0120-700027

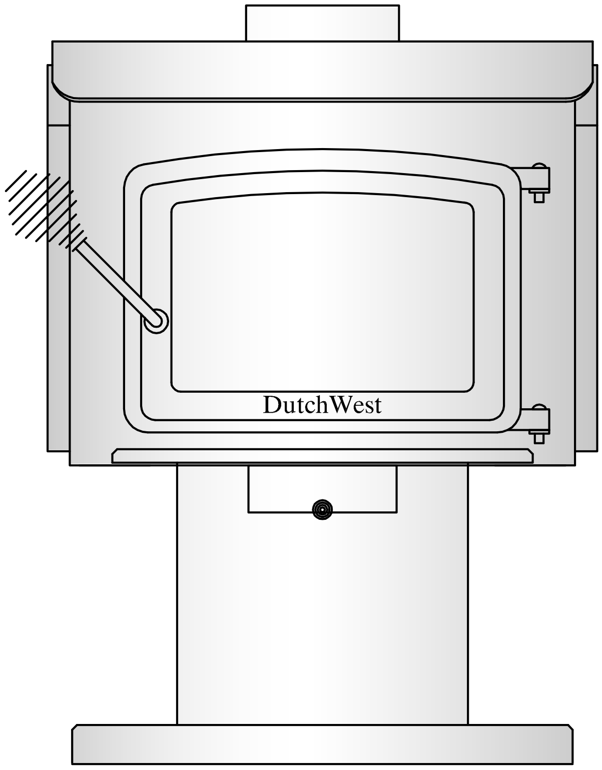
EST. 1974
DUTCHWEST
BY VERMONT CASTINGS

DUTCHWEST "Entry Pedestal"

ダッチウエスト"エントリーペデステル"

FA244P

据え付け・取り扱い説明書



安全のために

据え付けや運転を行う前に、必ずこの説明書を最後までお読みください。このストーブは、適切な据え付け、運転、維持がされている限り安全にご使用になれます。説明書の指示が守られなかった場合、火災が発生し、資産の損害や怪我、あるいは人命の喪失を引き起こす可能性があります。

この説明書は捨てずに必ず保存しておいてください。

はじめに

このたびは、ダッチウエスト"エントリー"をお買い上げいただき、誠に有難うございます。ダッチウエスト"エントリー"は、最新の燃焼技術と伝統的な様式美を兼ね備えたクリーンバーン方式の高性能ストーブです。このストーブには、耐久性の高い鋼板が使用されており、素早い放熱性能を発揮するとともに、火室内部にくまなく内張りされた耐火レンガによって蓄熱性能も高くなっています。この説明書に従って正しくご使用していただければ、安全で経済的な暖房器具として末長くご使用いただけます。

このストーブの据え付けは、専門業者に行ってもらうことをお勧めいたします。ご自分で据え付けを行う場合は、専門業者のアドバイスを仰ぎながら行うようにしてください。また、火災保険の適用条件ついて、保険会社に確認されておくこともお勧めいたします。

DUTCH WEST "Entry Pedestal"

目次

●仕　様 ………………………… 1

●安全距離 ……………………… 1

●組み立て方法 ………………… 2

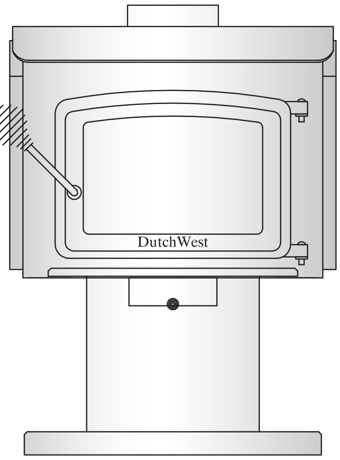
●使用方法 ……………………… 3

●メンテナンス ………………… 5

●分解図とパーツリスト ……… 9

組み立てやご使用の前に、必ずこの説明書を最後までお読みください。説明書の指示が守られなかった場合、火災が発生し、資産の損害や怪我、あるいは人命の喪失を引き起こす可能性があります。この説明書は、今後のご使用の際に簡単に見ることができるよう、身近なところに保管してください。

仕 様



	●FA244P
幅	572mm
高さ	765mm
奥行	510mm
最大薪長さ	46cm
最大燃焼時間 1	7時間
最大暖房面積 2	93㎡
最大熱出力 1	6,600Kcal
EPA（米国環境保護庁）排気煙量	5.0g/hr
重量	79kg
薪投入口	正面
煙突取り付け位置	上
空気調節	1ヶ所

ダッチウエスト"エントリーペデスタル"の仕様

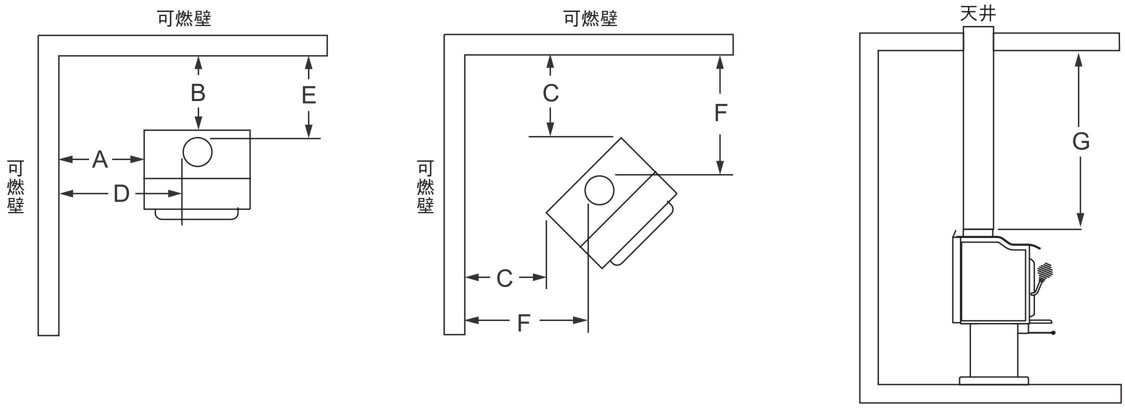
1）最大燃焼時間と最大熱出力は、実験室において、よく乾燥した薪を使用したテストで得られた数値です。これらの数値は、ストーブの運転方法、ストーブのタイプ、薪に含まれる水分の割合などの要因によって異なります。最大燃焼時間は、最大熱出力とは異なる条件下で得られた数値です。

2）この数値は、アメリカの建築法に基づいて建てられた家屋で、アメリカ北東部の典型的な冬の気候条件の下で計測されたものです。お客様の家が、この基準以下の建て方であったり、冬の寒さがもっと厳しい地域にある場合は、これらの数値が適用されないことがあります。ストーブの性能には様々な要素が影響します。お客様の家に、どれ位の能力のストーブが必要かについては、お近くの販売店にお問い合わせください。

安全距離

クリアランスチャート（可燃壁からの安全距離）

ストーブと室内煙突の、可燃壁からの安全距離を調べる場合は、下記の図を参考にしてください。

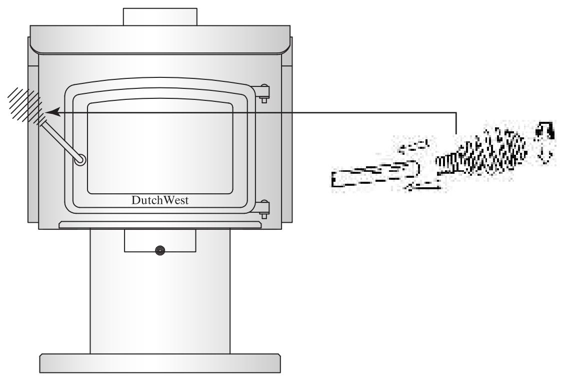


FA244	可燃壁からの安全距離						
	A	B	C	D	E	F	G
	267mm	267mm	267mm	483mm	292mm	483mm	1372mm

組み立て方法

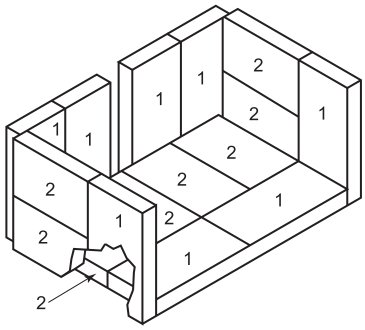
このストーブは、いくつかの組み立て作業が必要です。下記の手順に従い、正確に組み立てを行ってください。

スプリングハンドルの取り付け

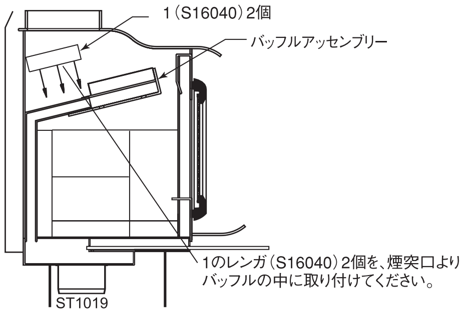


●ドアハンドル及びエアーコントロールレバーに、スプリングハンドルを押しつけながら、反時計回りに回すと、希望の深さまで入れることができます。

耐火レンガの取り付け位置

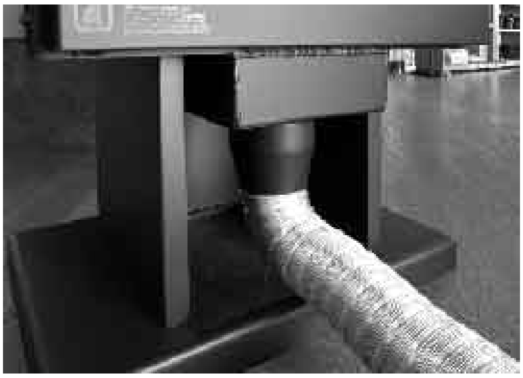


バッフル用レンガの取り付け



耐火レンガパーツリスト			
ITEM	DESCRIPTION	PART #	QTY
1	FIRE BRICK LT9″（229mm）×4-7/16″（113mm）×1-1/4″（32mm）	S16040	10
2	FIRE BRICK LT6-1/2″（165mm）×4-7/16″（113mm）×1-1/4″（32mm）	S16249	8

外気導入キット（オプション）の取り付け



●ストーブ背面にある空気取り入れ口にアルミダクトを差し込みます。接続部はネジ止めかアルミテープで固定してください。なお台座の下が空間になっておりますので、空気取り入れ口から真下にダクトを持ってくることも可能です。

使用方法

ヒーターの操作方法と特徴

●エアーコントロール（空気調整）の方法

このストーブには、空気の取り込み量を調整できるエアーコントロールが付いています。通常、取り込む空気の量が多いほど燃焼は早くなり、火力は強くなります。逆に、取り込む空気の量を少なくすると、火力は弱くなりますが、その分燃焼時間は長くなります。

エアーコントロール・レバーは、正面の中央にあります。このレバーは、内部にあるシャッターを操作するもので、レバーを引くと、空気取り込み量が増えます。

●薪の上手な焚き方

薪を焚くという作業は、科学というよりも芸術に近いと言われています。良質の乾いた薪を使い、ストーブの空気取り込みシステムを良く理解すれば、薪を焚く技術は簡単に身に付けることができます。

●燃料には品質の良い薪を

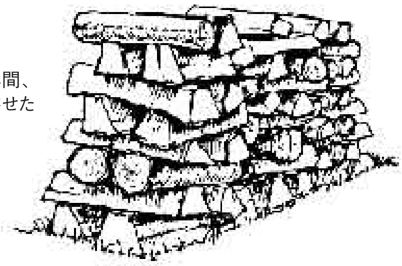
このストーブは、天然の薪のみを焚くように設計されていますので、それ以外の燃料は使用しないでください。圧縮加工された木材、塗装された木、カラー印刷された新聞紙などは燃やさないでください。

針葉樹や生木に比べて、適度に風にさらされて良く乾燥した広葉樹は、燃焼効率が非常に良く、排気ガスはずっと少なくなります。生木は、水分を含んだクレオソートが多く発生しますので、絶対に燃やさないでください。

最高の薪は、適切に乾燥させたナラ、カエデ、カバ、クヌギなどです。割った薪は屋外に積み、カバーをかけ、最低1年間は乾燥させてください。広葉樹が手に入らない場合は、カラマツ、アカマツ、スギ、ヒノキなどの針葉樹をしっかり乾燥させてから焚いてください。薪の長さは、ご使用になるストーブに合わせて切ってください。2年以上乾燥させた薪は使用しないでください。灰色がかっているような古い薪は、燃焼速度が速くなりすぎ、ストーブの性能が十分に発揮されないうちに燃え尽きてしまいます。

薪を保管する際は、乾燥を保つために、必ずカバーをかけてください。また、どんなに短い間であっても、薪はストーブから安全な距離をとって保管してください。ストーブの周囲には、薪を投入したり、灰を出したりする作業がしやすいように、ゆとりを持ったスペースを確保してください。

最良の薪は、
少なくとも1年間、
屋外で乾燥させた
ものです。



●最適なエアーコントロールの調整

エアーコントロールの調整具合は、これで絶対というものはありません。ストーブの設置場所、燃料の質、部屋の広さ、どのくらい長く燃焼させたいかなどによって異なります。

エアーコントロールの調整は、ストーブから煙突までのドラフトによっても異なります。ドラフトに影響を与える要素としては、煙突の高さや種類、煙突の設置場所、立地条件、近くにある大きな障害物（建物や木立など）などがあります。

あまりにも強いドラフトは、ストーブ内の温度を異常に上げ、ストーブ本体や耐火レンガの破損につながります。逆に、ドラフトが弱すぎると、煙が室内に逆流したり、煙突が詰まりやすくなります。

ドラフトが強すぎるのか弱すぎるのかは、ストーブや煙突の様子を見るとわかります。ドラフトが強すぎると、ストーブや煙突の一部が、過熱して赤くなるという症状が現れます。ドラフト不足の場合は、ストーブや煙突の連結部分から煙が室内に漏れてくるという症状が現れます。

ストーブの使い始めの内は、毎回、どのような調整をしたか、記録しておくようにしてください。1～2週間もすれば、様々な状況での、最適なセッティングが分かるようになるでしょう。

煙突のドラフトを最適に保つには、天候の変化を絶えず気にかけることです。屋外の気温が高くなったり、気圧が低くなったりすると、ドラフトは弱くなります。逆に、屋外の気温が低くなり、気圧が高くなると、ドラフトは強くなります。ただし、屋外煙突の露出部分が多い場合は例外です。煙突が外気によって冷やされてしまい、排気ガスの温度も下げてしまうからです。とくに屋外の気温が非常に低いときはなおさらです。

ストーブと煙突が適切な設置がされており、十分なドラフトがあれば、とくに大量の空気は必要ではありません。ストーブの火力を上げようとして、エアーコントロールの調整を、指示以上の範囲にまで広げるようなことはしないでください。

最近の住宅は、断熱性や気密性が非常に高いため、ドラフトが弱いと、室内の空気が不足しがちになります。このような場合は、ストーブに近い風上側の窓を少し開けると、新鮮な空気が入り、正常に燃焼するようになります。

燃焼空気を十分に取り込むためのもっと良い方法は、ストーブの近くに、屋外の空気を取り込む吸気口を設けることです。

「エアコントロールの設定」を参考にして、様々な状況をお試しになり、お客様のストーブに最適なセッティング方法を見つけてください。

着火と継続燃焼方法

警告：
ストーブを使用するときは、必ず全てのドアが閉まっていなければなりません。運転中のストーブは高温になりますので、小さなお子様、衣類、家具などを近付けないようにしてください。

●慣らし運転（塗料の焼き入れ）

新しいストーブを初めて使用する場合は、ストーブ表面の塗料を硬化させるための慣らし運転が必要です。次に示す手順に従い必ず慣らし運転を行ってください。ストーブ表面温度の確認には、オプションのストーブ温度計をご使用ください。

最初の燃焼時は、塗料が焼けて煙が発生します。煙が出ているうちは、窓を開けて換気を行ってください。一度燃焼させると、塗料に焼きが入り、硬化しますのでそれ以上煙は出なくなります。

1）最初の2回は、約120℃で20分間ほど燃焼させます。
2）3回目は、260～370℃で45分以上燃焼させます。
　大切なのは、塗料をゆっくりと硬化させることです。塗料が硬化している間は、ストーブを高温で燃焼させないでください。

塗料は硬化する課程で粘つくことがありますが、この状態が過ぎると硬くなります。また、ストーブの表面に、梱包材と擦れてできた跡が残る場合がありますが、これは、塗料が硬化していくにしたがい消えていきます。

●点火

ステップ1　エアーコントロールを全開にします。
ステップ2　ストーブの中に丸めた新聞紙を入れます。この上に、よく乾燥した、指の幅大に割った焚き付けを6～8本載せ、さらにその上に、よく乾燥した25～50mmほどに割った薪を2、3本載せます。
着火には、絶対に化学薬品や薬剤を使用しないでください。ガソリンやエンジンオイルのような燃えやすい液体や、生ゴミなどは絶対に燃やさないでください。また、ランタン用の燃料や灯油なども、着火や再燃焼用には、絶対に使用しないでください。
ステップ3　新聞紙に火をつけ、ドアを閉めます。10～15分くらいで燃焼が安定してきます。少しずつ薪を足していくと、徐々に火が大きくなります。薪の下に熾きが溜まるまで燃やし続けてください。
ステップ4　火が安定して燃えてきたら、5センチほどの熾きができるまで薪を足してください。このストーブは、空気が火室全体を循環できるとき、最も効果的に機能するよう設計されています。この状態にするため、手前の熾きを後ろの方に集めてから、中央付近に薪を足すようにしてください。
ステップ5　10分ほどで火が安定してきますのでエアーコントロール・レバーを調整しながら（3Pの「エアーコントロールの設定」参照）、ご希望の燃焼状態にしてください。火室の中に煙が充満しているようであれば、再度炎があがり、薪に十分点火するまで、エアーコントロールを全開にしてください。

注意：
煙突が冷えている場合は、事前に煙突を暖め、十分な吸い込みを発生させる必要があります。その場合、新聞紙を2、3枚丸めて、焚き付けの上や後方に置き、火をつけてドアを閉めます。これで煙突が暖まり、十分なドラフトが発生します。ドラフトが発生したらフロントドアを開き、燃料に着火してください。煙突に吸引力がつくまでは、主燃料は燃やさないでください。一度で吸引力がつかない場合は、二度、三度と繰り返してみてください。

このストーブは、燃焼中は非常に高温になり、触ると火傷をします。小さなお子様、衣服、家具などを近付けないでください。
ストーブの過剰燃焼にご注意ください。過剰燃焼は火災の原因になりますし、ストーブ本体の損傷にもつながります。ストーブの表面や煙突の一部が赤くなっていたら、過剰燃焼の状態にあるということです。

●薪の補給と火力の回復

熾きがたくさんあるうちに薪を追加すると、すぐに火力を回復することができます。細い薪も一緒に足すと、あっという間に高温にすることができます。

薪を追加するときは、次の手順で行ってください。
●エアーコントロールレバーを「全開」の位置にします。
●フロントドアを開け、炉床の上と灰受け皿にある灰の厚さをチェックします。炉床の灰が多すぎるときは、捨ててください。
●薪を投入します。細い薪を最初に入れ、次第に太い薪を入れるようにしてください。
●エアーコントロールレバーを望みの暖かさになるよう調整します。

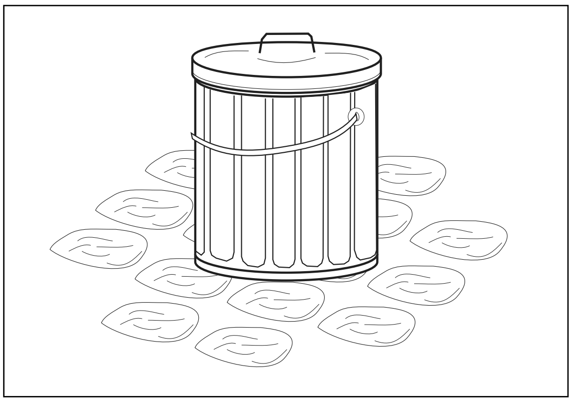
●灰の処理

灰を取り出す際は、ストーブ用の革手袋をはめて行ってください。燃料を補給する際は、必ず灰の量を点検し、灰が一杯に溜まっていた場合は取り除いてください。

注意：
灰は全て取り除かず、2～3cmほど残しておきますと、次の着火がしやすくなります。

●安全な灰の処理方法

灰には熱い熾きが入っている場合がありますので、取り扱いには十分な注意が必要です。取り出した灰は、しっかりと蓋が閉まる金属製容器に入れ、屋外で保管してください。最終的な処理をするまでは、不燃性の床や地面に置き、可燃物との距離も十分に確保してください。灰は園芸用の肥料として利用できますが、完全に冷めたのを確認してから使用してください。



熱い灰は非常に危険です。しっかりと蓋の閉まる金属性の容器で、屋外の安全な場所に保管しましょう。

注意：
ストーブの灰は掃除機で吸い取ってはいけません。灰は必ず指示された方法で取り除いてください。

メンテナンス

ストーブのお手入れ

●ストーブ表面のお手入れ

乾いた布で時々ほこりを拭き取りますと、ストーブの表面を常に新しい状態に保つことができます。
また、必要に応じて、表面のペイントを補修することもできます。この場合、必ずストーブが完全に冷めたのを確認してから行ってください。まず、補修したい表面をきれいに掃除をしてください。真鍮部品やガラスなどにはマスキングテープを貼り、塗料がつかないように保護してください。その後、専用の耐熱塗料を使用し、塗装を行ってください。屋内で作業をする場合は、十分に換気を行ってください。塗装は、厚塗りを1回するよりも、薄塗りを2回した方が、きれいに仕上がります。

●ガラスの清掃

ガラスに付着した汚れのほとんどは、火力が高温になるにしたがい焼け落ちてしまいます。ガラスに付着した汚れを拭き取る場合は、乾いた新聞紙を丸めたものを使用してください。絶対に熱くなっているガラスを、液体のクリーナーで掃除しないでください。それでも汚れが取れない場合は、以下の手順で清掃してください。
・ガラスが完全に冷めていることを確認してください。
・専用のガラスクリーナーを塗り、乾いた布で拭き取ってください。
・ガラスを完全に乾かしてください。

●ドアガスケットの点検と修理

ドアガスケットに、一部でもへたっているところがあると、そこから空気が漏れ、このストーブの特徴である気密性が損なわれることがあります。へたっている場所を確認するには、紙を一枚はさんでドアを閉めてみてください。紙を引っ張ってみて、破けずに、簡単に抜けてしまうようであれば、ガスケットに問題がある証拠です。へたっているところがある場合は、ガスケットの調整をする必要があります。現在ついているガスケットを持ち上げ、少量のセメントかガスケットを溝に詰めてください。本来のガスケットが持ち上がり、ドアフレームとしっかり接触するようになります。

このような調整をしても、まだ紙が抜けるようであれば、ガスケットを交換しなければなりません。以下の要領でガスケットの交換を行ってください。

1.現在ついているガスケットの端を、しっかりと掴んで引っ張り、取り除きます。
2.安全メガネをかけ、ワイヤーブラシかドライバーの先端を使って、溝の中に残っているセメントやガスケットのカスをきれいに取り除きます。
3.古いセメントを取り除いた溝の中に、耐火セメントをビーズ状に注入します。
4.溝の中に新しいガスケットをはめ込みます。ガスケットの端は5〜6センチ余裕を残して切断してください。
5.ガスケットの両端がほどけたり、重なったりしないように接着し、余分を切り落としてください。
6.溝の周囲にはみ出したセメントを取り除いた後、ドアを元に戻し、閉めて、24時間以上常温で乾燥させてください。
7.乾燥させた後、ドアに紙をはさみ、密閉度を確かめてください。明らかに密閉度が不足している場所があれば、セメントを足すなどして調整してください。

●ガラスの破損に注意

乱暴にドアを閉じたり、薪でガラスを叩いたりしないでください。また、ガラスにひびが入ったり、割れたりした場合は、ストーブを使用しないでください。ガラスを交換する場合は、必ず当社の純正品をご使用ください。

煙突のお手入れ

●煙突の清掃

煙突は、少なくとも毎月2回は点検して、必要に応じて掃除をしましょう。
ストーブの使い始めの内は、毎日クレオソートの付着具合を点検してみてください。クレオソートは、粘着性のあるタール状、または乾燥したフレーク状の物質です。経験を積むにしたがって、どのくらいの頻度で掃除をすればよいかがわかってきます。頻度は季節によって異なります。寒い季節には火力を高めに設定するため、クレオソートは燃え尽きてしまいます。そのため、掃除は2～3ヶ月に一度でいいでしょう。寒さがゆるんで、それほど高温で焚かなくなる季節には、クレオソートが溜まりやすくなりますので、毎月掃除をする必要があるかもしれません。
ストーブの使用期間中は、少なくとも2ヶ月に一度は点検をして、クレオソートやススがたまっていないかどうかを点検してください。クレオソートやススが3mm以上付着していたら、火災が起こる危険性がありますので、必ず除去してください。
煙突火災は以下のような段階を経て発生します。

・ストーブを低い温度で燃焼させると、タールやその他の有機性の蒸気が生成され、これが水分と結合してクレオソートが発生します。
・クレオソートを含む蒸気は、比較的冷たい煙突内では凝縮しやすくなります。
・その結果、クレオソートの残留物が煙突の内側に付着します。
・クレオソートは可燃性物質のため、何かの拍子に着火すると、煙突内に非常に高温な炎が発生します。
・その結果、煙突が損傷するだけでなく、煙突の周囲にある木材なども加熱させ、損傷を与えます。クレオソートの生成量を減らすには、十分な燃焼空気を供給して、不完全燃焼を起こさないようにし、規模は小さくても、強力な火を維持することです。
万が一の煙突火災に備え、事前に、消火方法などを確認されておくことをお勧めいたします。

●煙突の定期点検

煙突は、月に2回以上点検し、必要に応じて掃除をしてください。煙突内の点検は、ストーブが完全に冷めてから行ってください。懐中電灯と鏡を使って、煙突掃除口から中を見てみます。掃除口がない場合は、煙突をストーブから外して点検します。煙突掃除には、煙突の内径に合った煙突掃除用ブラシを使用してください。ブラシには、専用の棒かロープを装着して、上下に動かし、付着物を落とします。落とした付着物は、きれいに取り除いてください。室内煙突は1本ずつ分解し、屋外で、ワイヤーブラシなどを使用して付着物を除去します。掃除が終了したら煙突を元に戻しますが、このとき、必ず3本のネジで、各部分（スライド部分は除く）をしっかりと固定させなければなりません。

メンテナンススケジュール

■ストーブ

●日常のお手入れ

・最低1日に1回は灰の溜まり具合を点検してください。
・ストーブの周りをきれいに片付け、近くに可燃性のものを置かないようにしてください。

●2ヶ月ごとのお手入れ

・ドアラッチが適切に締まっているか点検してください。ガスケットは、一定期間が経過するとつぶれてしまいますので、必要に応じて点検・調整を行ってください。

●シーズン終了後のお手入れ

・ガスケットの減り具合を点検し、必要に応じて交換してください。
・火室内の灰を捨て、吸湿剤（猫のトイレの砂など）を入れて、ストーブ内部を乾燥させてください。
・ストーブ内部の、各部品を固定しているボルトを一度ゆるめ、再度締め直してください。長い期間この作業をしないと、ボルトが熱と錆で固着してしまい、外れなくなることがあります
・ストーブ内部に付着しているススやタールを、ワイヤーブラシなどで取り除いてください。ススやタールが付着したまま放置すると、内部部品を傷める原因になります。
・ストーブ全体のほこりを取り除いてください。ストーブの表面にほこりがついていると、熱の発散が妨げられてしまいます。
・塗装が剥がれている場合は、純正の耐熱塗料で補修をしてください。

■煙突

●2週間ごとのお手入れ

・煙突内部を点検し、必要に応じて掃除をしてください。

●2ヶ月ごとのお手入れ

・煙突内部を点検してください。とくに曲がりと水平部分はススが溜まりやすいので、念入りに点検し、必要に応じて掃除をしてください。

●シーズン終了後のお手入れ

・ストーブの口元からトップに至るまでの、全ての煙突を点検し、掃除を行ってください。煙突に付着したクレオソートを放置しておくと、正常な燃焼を妨げるばかりか、煙突火災を引き起こす原因にもなります。
・煙突内部に異物（鳥など）が入らないように、煙突トップにアミやカバーを付けてください。
・各煙突部材を点検し、金具のゆるみや、シーリングの劣化などがあれば補修してください。また、損傷がある場合は、新品と交換してください。

ドラフト管理

ストーブは、煙突、使用する人、燃料、家屋からなる、1つの総合的なシステムの一部だと思ってください。こうしたストーブ以外の要素が、ストーブの調子に大いに影響してくるのです。全ての要素の相性がよいと、ストーブは効果的に働きます。

薪ストーブの性能は、ドラフト（自然の通風力）次第です。ドラフトとは、煙突の先端部分で、排気ガスの温度が屋外の空気より高い（つまり、軽い）ときに起こる空気の動きです。温度差が大きければ大きいほど、ドラフトは強くなります。熱い排気ガスが煙突から上がると、吸引力が起こり、空気がストーブに引き込まれて燃焼空気となります。ストーブ本体の空気取込口を最大に開けて、強火で燃やしていると、ドラフトは強くなります。空気取込口から空気を多く取り込み、盛んに火を焚くとよいドラフトが発生しますが、この空気取込口は受け身であり、取り込む空気の量の調整はできますが、空気を積極的にストーブの中に送り込むことはできません。

最近の薪ストーブは、燃焼用空気の量を調整することができます。こうした薪ストーブの効率は、煙を暖かいまま屋外に排出できるか否かで変わってきます。煙突が鉄製か、レンガ製か、家の内部にあるか外部に出ているのか、ストーブのフルーカラーにぴったりはまるか否かといった煙突の特徴は、強力なドラフトを早く起こせるか、最適な温度を長時間維持できるかに、大きな影響を与えます。次に様々な煙突システムの影響と、それがストーブの性能に与える影響についてご紹介いたします。

●レンガや石造りの煙突

レンガや石は伝統的な煙突素材ですが、燃焼が調整できる近代的な薪ストーブを使うには不向きです。これらの煙突は、「熱の落ち込み」がはっきりと出ます。長期間燃やしていると、レンガや石が熱を吸収・蓄積しますが、煙突には多量のレンガや石が使用されているので、これら全てが強いドラフトを起こせるまで熱くなるまでには、時間がかかり過ぎます。冷えた煙突は、排気ガスの温度を上げないどころか、ドラフトの力を消してしまいます。もしも、煙突が屋外に出ていたり、煙突の断面積がストーブの排気口よりも大きい場合は、この問題はさらに深刻になります。

●スチール製の煙突

工場製のスチール煙突のほとんどが、断熱効果のある多重構造になっています。内側の煙突は高温になりますが、内側煙突と外側煙突の間に、高性能な断熱材が充填されているため、外側の煙突には熱が伝わらず、周囲の構造物を高温から守り、また、煙突内を通る煙の温度も下げません。

スチール煙突の内側の煙突は、レンガや石の煙突にくらべ、非常に早く温度が上昇します。外観的にはレンガや石の煙突の方が風情がありますが、スチール煙突の方が耐久性、性能とも非常に高いのです。

●煙突の設置場所

煙突の機能は、煙を熱い状態のまま排出することですので、煙突は家の中にある方がベストです。煙突を家の中に設置すると、外気の影響を受けることもなくなりますし、煙突からの放射熱が家の中に発散されることにもなります。屋外に逃げる熱が少ないということは、ストーブの熱のロスが少なくて済むということにもなります。

●煙突のサイズ

ストーブの煙突のサイズは、ストーブのフルーカラーと同じ大きさでなくてはなりません。煙突がフルーカラーよりも大きいと、排気ガスが薄まり、上昇気流が失われます。6″のフルーカラー（28平方インチ）のストーブに、10″×10″の煙突をつなげると、排気ガスは最初の量の1/3に薄まります。その結果、ガスの温度が下がり、ドラフトも弱まります。また、大きすぎる煙突が屋外にある場合は、外気で冷やされますので、さらに煙の温度を下げてしまいます。

一般的に、レンガや石でできた煙突は、ストーブに対して大きすぎます。このような煙突は暖まるまでにかなりの時間がかかり、その結果、ストーブが思い通りに温度が上がらないということになります。大きすぎる煙突に対する一番よい解決方法は、ストーブのフルーカラーと同じサイズの、断熱式スチール煙突ライナーを取り付けることです。このライナーをつけることにより、排気ガスを暖かく保つことができますので、強力なドラフトを発生させることができます。断熱式ではないライナーを取り付けることもできますが、この場合、ライナーの周りの空気を暖めるのに時間がかかりますので、その間の熱エネルギーを消耗することになってしまいます。

●煙突のレイアウト

煙突の曲がりは、ストーブから煙突トップに至る排気の流れにとって、障害になります。理想的なレイアウトは、ストーブから煙突トップまで曲がりがなく、まっすぐ上に伸びるタイプです。ストーブの性能が最もよく発揮され、メンテナンスも容易ですので、できるだけこのようなレイアウトにしてください。どうしても曲がりが必要な場合は、ストーブのフルーカラーと、二重煙突の接続部の中間に曲がりがくるようにしてください。このように配置した方が、排気ガスのスピードが上がり、スピードアップした状態で曲がりを通過しますので、スムーズな排気ができるようになります。

●煙突の共有について

ストーブの煙突は、ストーブ専用とし、他の機器と共有させないでください。ドラフトは自然なエネルギーのため、抵抗が少ない方に進んでしまいます。ストーブの煙突が別の暖炉や、その他の機器に接続されていると、これらの機器からも空気を引き込んでしまいます。このようにして取り込まれた余分な空気の流れは、排気ガスの温度を下げ、ドラフトを失わせ、クレオソートをより多く発生させてしまいます。多くの機器を接続した煙突は、ホースに穴が開いた掃除機のようなものです。最悪の場合、他の機器のドラフトが負のドラフトを起こし、その結果、危険なドラフトの逆流が起こってしまいます。

●燃料

ストーブが最高の状態で据え付けられたとしても、燃料が悪いと良い燃焼は得られません。必ず、1年から1年半かけて乾燥させた、広葉樹を使用してください。針葉樹は広葉樹よりもよく燃えますが、クレオソートの原因となる樹脂が多く含まれています。腐りかけた木は、燃やしてもあまり熱を発生しませんので、使用しないほうがよいでしょう。

切ったばかりの生木は、水分を多く含んでいますので、熱のほとんどは木が燃える前に、水分を蒸発させるために使われてしまいます。このため、本来の熱量が減るだけでなく、火力や排気ガスの温度まで下げてしまいます。また、不完全燃焼と排気ガスの低温化のため、クレオソートの生成が促進され、ドラフトも弱まってしまいます。

薪に含まれている水分量は、見た目や重さから推測できますが、市販の湿度計を使用すると正確に測ることができます。乾燥していない木の重さは、乾燥した木の3倍あります。また、木は乾燥すると縮むので、割れ具合でも判断することができます。割れ目が長く、幅が広いほどよく乾燥しているということです。

●クレオソート

クレオソートは、ストーブを低温で燃焼させたときの副産物です。排気ガスの温度が149℃以下になると、不完全燃焼のガスが煙突の中で凝縮します。その結果できるタールがクレオソートです。クレオソートは揮発性なため、煙突火災を引き起こす恐れがあります。

煙突のドラフトにとってマイナスな据え付けは、クレオソートの生成を促す要因となります。つまり、適切な煙突の設計や、ドラフトを高めるような運転をすることにより、クレオソートの生成を最小限に抑えることができるということです。

頻繁に煙突内部を点検し、6mm以上のクレオソートが付着していれば、煙突掃除を行ってください。

●バックパフ

バックパフとは、ドラフトが弱くて、煙突の吸引力が弱すぎるために、燃焼速度に合わせて排気ガスを排出できないときに起こる現象です。火室で発生した不完全燃焼ガスが、一定の濃度と温度に達したときに点火され、「ポン」という音とともに、煙が空気取込口より出てきます。

バックパフは、外気温がゆるみ、弱火で燃焼するようになる春先によく起こります。弱火で燃焼するようになると、ドラフトが弱まりますので、バックパフが起きやすくなります。バックパフが起きた場合は、空気取込口を大きく開き、火を勢いよく燃えるようにして、ストーブから煙突にかけてのドラフトを適切な状態にします。また、一度にたくさんの薪を入れないようにしてください。低燃焼時にたくさんの薪を入れると、着火する前にいぶされて、未燃焼ガスを多く発生することになります。

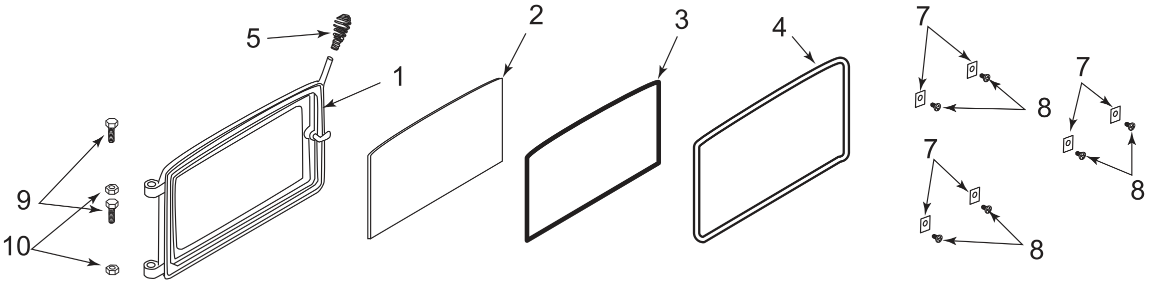
●負の圧力

良いドラフトが発生するには、ストーブに十分な空気を供給する必要があります。煙突は、供給される以上の空気は吸い込めません。弱いドラフトの原因としては、家が密閉されすぎていて、ストーブに十分な空気が供給できない。あるいは、ストーブ以外に、室内空気を吸い込もうとする機器（キッチンの換気扇、衣類乾燥機、浴室など）があり、空気の争奪戦になっている。の2点が考えられます。これらの機器を止めることにより、煙突の吸い込みが良くなるようでしたら、各機器を使うタイミングに気を付ければ、問題は解決します。また、壁や床に、ストーブに必要な燃焼用空気を取り込む吸気口をつける方法もあります。

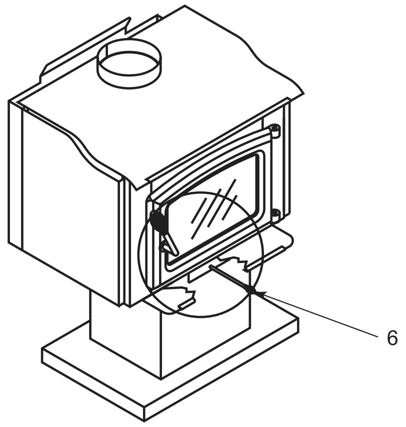
●結論

薪を焚くということは、科学というより芸術に近いかもしれません。芸術には当然技術も含まれます。設置場所や薪の種類によって、運転方法も変えなければなりませんので、ストーブを使用する人は、良い燃焼をするための技術（タイミングなど）を習得しなければなりません。しばらく使用しているうちに、様々な因果関係や、季節の変化がもたらす影響についても、見分けられるようになるでしょう。

分解図とパーツリスト



DUTCHWEST
Entry
ダッチウエスト
エントリー（FA244P）
分解図



DUTCHWEST Entry
ダッチウエスト　エントリー（FA244P）パーツリスト

Ref.	Description	Part No.
1.	Door	90000098
2.	Glass	S31117
3.	1/8″Glass Gasket	GK244GL
4.	5/8″Door Gasket	GK244FD
5.	Spring Handle	90000069
6.	Air Control Spring Handle	90000070
7.	Glass Clip	S37034
8.	Screw	S11086
9.	Hinge Pin	S11005
10.	Push Nut	S11090

注意：製品改良のため、予告なく材料・仕様の一部を変更することがあります。

Dutchwest Japan
wood stoves & fireplaces

ダッチウエストジャパン株式会社
〒080-0010　北海道帯広市大通南28丁目4
フリーダイヤル 0120 0120-700027